

繪本豐臣勲功記

四編

貳





繪本豊臣勲功記四編二之卷

目録

信長抱怨燒敵山殿衆徒

屬炮矢花急

若任房服秀吉仁智降参

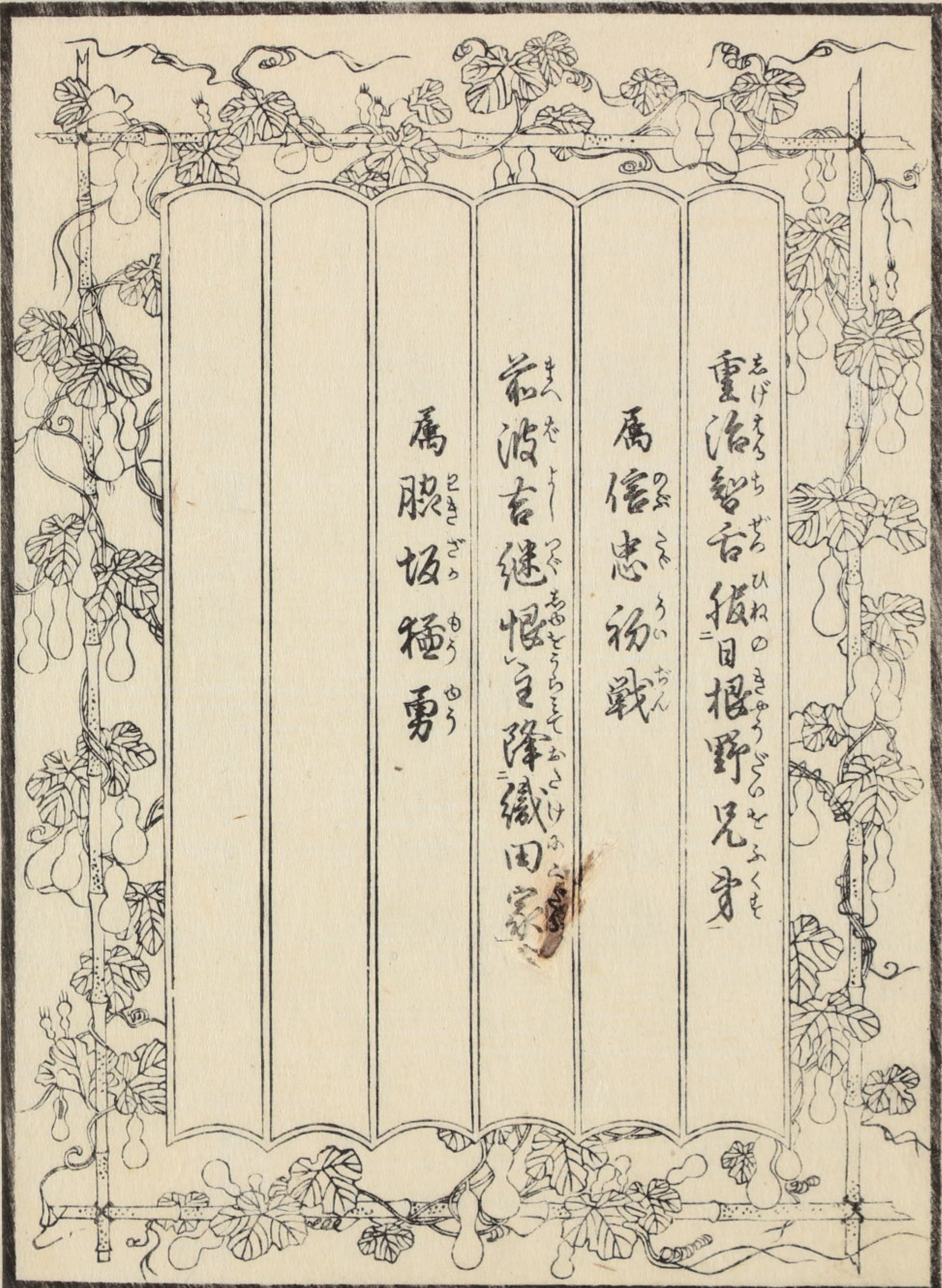
屬伊黑落城

重治智舌 拔日 根野兄弟

属 信忠 初戦

前波吉继 恨至 降織田家

属 殿坂 猛勇



繪本豊臣 勲功記 四編卷之二

江戸 八功舎 徳水 剛補



信長抱怨 燒敵山 殿衆徒 属 炮矢 花急

水の流れきて 形勢を為が像。然らば 遠响 長鴻勢の自由小をを用。
こと鬼神も測らざる。いかに 捕ら軍配ならん。得の大將信長
も舌を据ふて 蹄陣。いかに 幸やと 波阜一 沖容あり。自軍の多
夥く。戦死帯 瀬あり。のりも。氏家 拵全の 炮殺せり。是 紫田 徳家
ら 抱瀧せらる。いかに 危き 軍あり。と 関。いかに 今更 小歳 遭歎息。こ
すひ 大い 後悔ましく。是より 姑く 出陣の 指他も。かくして 諸公士と。
とぞ 在。たる 終。かどに 淺井 長政。一 撥せり。つて 豫の 刃を 攻起り。是

とも亦トグこめ小總敗軍とあじらふ。こも小懲てや門徒一撲もあざむ
 井の指揮小與分せど。總体離散し多し。長政今ハ詔方々。熟
 思慮せぬと。小信長遠事と听あふ。必出馬を志す。小防備
 の備さくんばあじ。と諸所の要崖小岩せ。筆を公士と分て。籠
 とらまづ。國友坂田那小岩の。野村肥後也。同公庫領せり。是
 と守らせ。官部のは若の要崖小善住房致潤と。楠籠らせ。
 若通寺の傍ありし。武術力量操練。沙門と種を山門と離殺し。放たる。
 紅水の地小あり。長政大。善住房。益量と。稱大將ふ。又月を
 の此石同那小岩の南。小丁野若使也。流布中。天野と。守らせ。備山か
 山の要害ハ山小山の南。最大切なんぬと。今村掃部。同十を
 阿内澄路也。安養寺之守。德治忠。善住房。小。千回。来。女。正。何。て。以。て
 嶺の此石也。流布中。天野と。守らせ。備山か。阿内澄路也。安養寺之守。德治忠。善住房。小。千回。来。女。正。何。て。以。て

今防備の本
 水軍軍能
 大防備と
 防備と
 防備と
 防備と
 防備と
 防備と
 防備と
 防備と
 防備と

嚴重小防戦の準備。急を致し。本城ハ。中法丸の備門中。
 浅井玄蕃。上。同。林。右。衛。門。大。野。末。土。佐。也。
 こと。御桶の如く。固め。を。備。又。敵。首。使。士。と。馳。義。系。出。馬。と。相
 後。信。長。の。波。阜。小。立。く。遠。江。伸。と。听。ゆ。急。に。速。日。出。る。
 こと。後。務。殿。と。決。せん。と。同。年。八。月。十八。日。甲。乙。の。戦。と。勃。然。と。し。め。
 波。阜。城。中。と。散。是。あ。る。一。層。城。五。重。有。余。人。千。餘。善。虎。を。備。山。山
 河。の。風。雲。一。天。地。と。併。地。小。震。動。さ。る。像。く。操。小。操。と。進。發。す。
 翌。十。九。日。申。上。の。當。夕。横。山。城。小。漸。着。あり。明。天。ハ。登。り。小。岩。推
 進。黒。白。の。色。見。分。ん。り。結。と。時。と。善。く。後。小。當。夕。大。風。狂。暴。
 くと。大。木。と。折。瓦。石。と。飛。せ。横。山。城。も。大。小。損。壞。し。操。塞。樓。と。吹
 崩。を。信。長。と。躬。と。氣。煩。む。以。法。天。災。の。處。と。と。勸。進。を。と。る。

量りざしと諸士を奮めて評決ある。响小秀吉進出河心寧まし
 小尾と日と過る際、破換を修復つらん備を内小敵進
 来るに拒抗方術の惟りりと最極小言條は城は修復せざるを
 人技少く致催し。只造作の准符の。後とせし休あり。浅井の
 公士をせせり。横山破損せしこそ事急小推進を致臨さんと
 違事せり。長政小言りしは多りしが大將智謀小言りしは城
 と窺ひし。小修理の作法寛るよし。長政部と告ると所攻をんといふ
 將佐を制止し。決て款向とせしむ。そを信冠者謀計あり。船小
 岡野の徳とせし。慣休奇名の準備して殿つれ計畧必熟せん。それ
 のをあらむ。信長大軍とせり。突費せし。遠方にも推進をたす。の
 て語し。姑く曉漢を窺ひし。と事と起さる。控り。然後小秀吉は

九のりち小於く大工の人技許多小命ト本組ホを急がせらん。うら健年
 輩と強催して土石を多く運容。二日目の晩天まで一晝二夜がま。小修
 復十分小整ふ。要崖堅固小結構し。長政信長は感悦深し。と
 要崖成然なると一日も空ふとせり。同日廿二日の發天と
 り。總軍を率統り。小谷と山本山の間を斬截中嶋を以て陣と
 す。余吾は庄本率の急を。諸不を致火とせし。信長の威ホ怖
 きたん。一士半率出合ぬ。終日織田堀籠り。亦七月の横山一掃城
 一。亦日佐和山へ射投あり。新村小川の支城と。小川の陣は流布
 小川の陣村小新村とのふあり。攻臨を。方術せり。丹羽柴田へ命せり。違不
 あり。西將は。日直地小。城へ推進。息をも續ぐ。せめ起る。河邊
 小防戦。九月朔日。新村流。後中戦死。城忽北。臨し。

豊田記四編卷之三

二

こま小怖きて小川の城を小川孫市降参を遠國小系を織田の種
 威ハ怒虎が礼竹を破るが像く同じく二日ハ常樂寺浦小郡豊小陣
 せられ冠軍小命とて西浦の城を攻さるる小是倉一揆の守城を
 色バ防衛するた力なく城を閉て落失う。十日ハ瀨田小をこれ
 山岡貞濃が旁へ所投ある遠响織田家の老臣平不審ころ小
 よつて三條をそく君別と云を攻させらるる西浦のふ歩もふ
 再び上洛のおがしめ小や所軍意いと同まやま信長は元と笑ハ
 せ玉ひ叶恩あり汝依ハ大敵平小審ころを知らざる事こそ急り
 なれ林比叡山延曆寺ハ帝都法護の山と號し放逐移授小威
 を審ひ却て朝敵小馳幸と初命台命をも用ゆる事ハ惡逆之道
 の山徒あり遠响滅亡と云んバ何時とる期を云ふ事あらん是より直

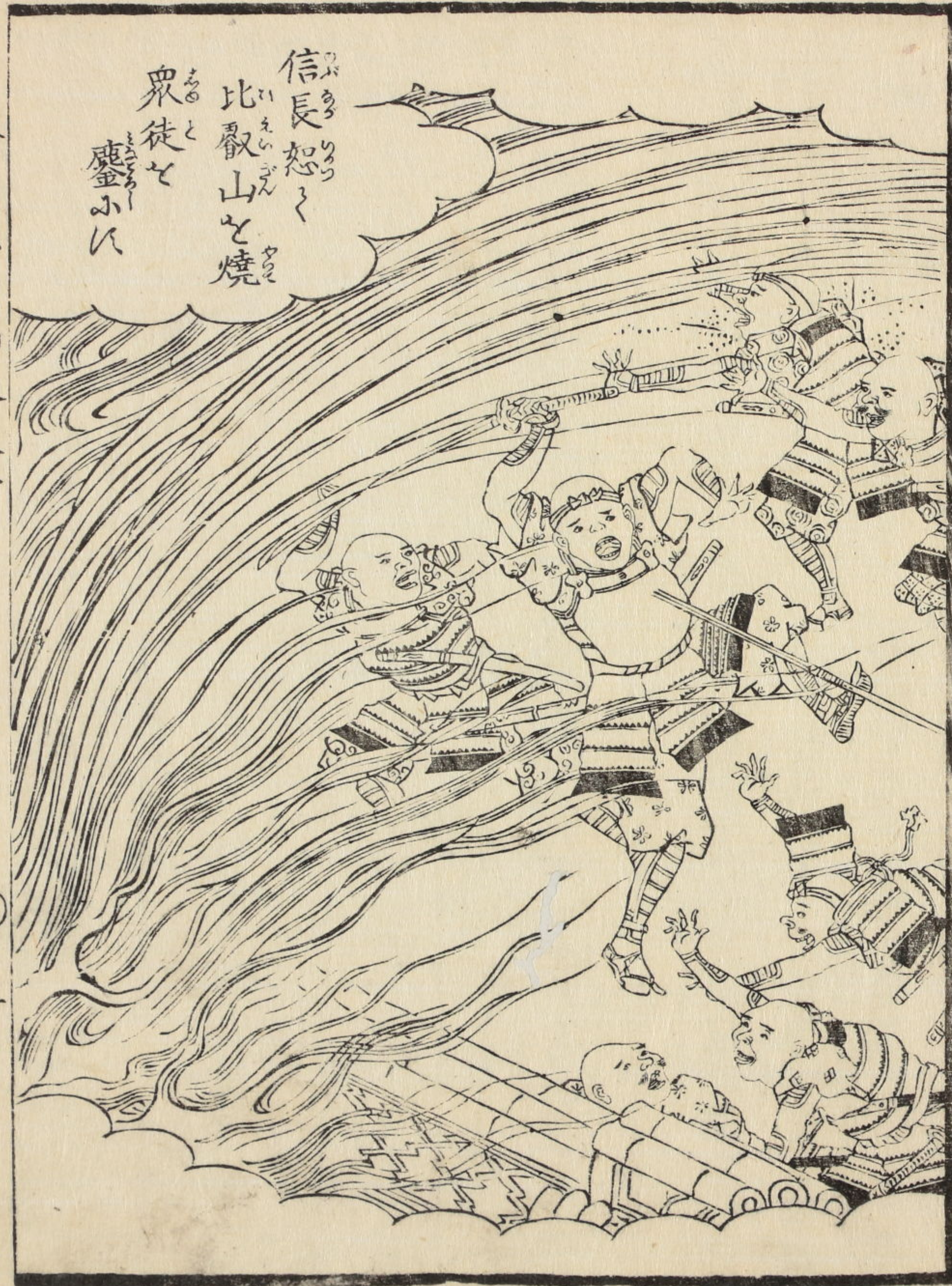
八五時四教と
 華蓋 眼
 四合 柱
 方等 二
 般若 二
 法苑 二
 この經を流
 るは五時と
 四教ハ
 義通別
 圓こと也
 此の經を流
 不定とて
 八教とて
 佛の四教は
 依りて
 業方のし
 義通別圓
 ハ化法
 業味の

小坂本ハ推進せ延曆寺を焼拂ひ二千餘衆徒を虜小せん有懈久
 とつとつとと度序を小宣んとすと依久間信盛の智光秀列日同辣
 びとつとつとと比叡山延曆寺ハ顯教密教兼て修學ハ五時四
 教とも小多る法大道場ハ文武西門の祈願するま不審餘も又
 掲る。是小依く往古より弘隆の併成を極く大衆依我意小強
 系とのとも王法小も是を判せらるるを然るを遠般一掃小此道場を
 没滅なさる天不法人の望小持ん去来歎徒を馳走は當家ハ歎對と
 せし事最も憎き取為なから出家の族小ハ當る後患もあるはは
 小之室の号徳小免と玉ひ燒棄るる命令ハ枉く堪忍あるま所
 やと詞を竭く諫言をれども信長更小所答玉とて同月十二日の
 曉天より總軍せりて推進り餘小言入る天台山と云霧を像く

豊臣記 四編 卷之三

三

信長怒り
比叡山を焼
衆徒と
塵金小

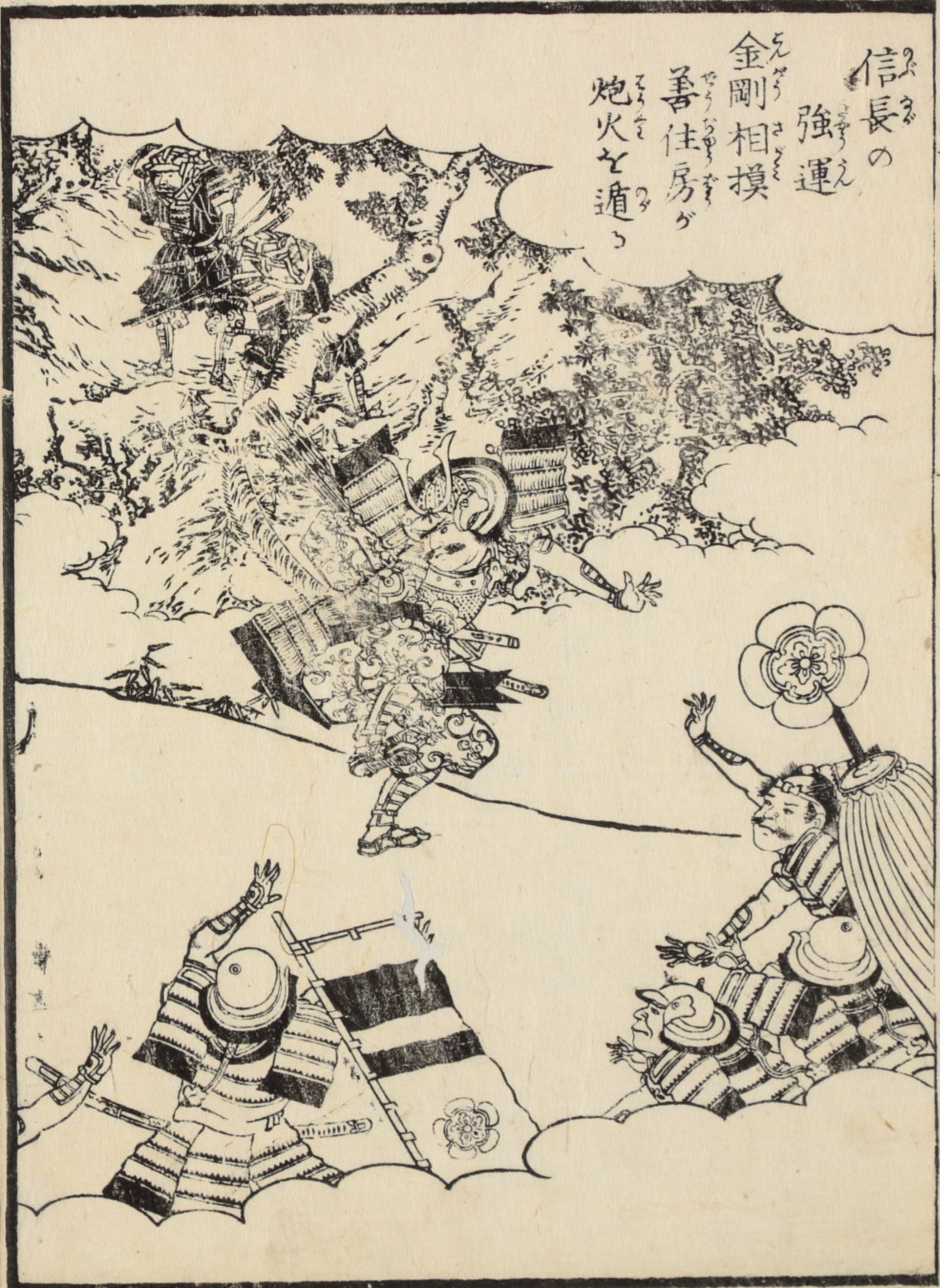


豊臣記四巻之二

提園とりの唯一ひと播小ひらと攻起せめる大泉おおいずみ倣なら大小おほいせう驍せう傾かたむり。鐘かねよ法ほう部ぶよ掃はきよ。
 と寺てらを堂どうく小せう唱なし起おこる。嶺ね々の殺ころす。透とほへ防まもぐといへ。とも織お田た。
 の大軍おほいぐん。多おほ流りゅう救きう千せん敵てき起おこる。山やまをも崩おこす。勢いきほ威いひまは。衆しゆ徒と倣ならら。
 まち。是こゝ小せう當たう的てきて死し亡ぼうを。軍ぐん救きう量りやう計けいを。源げん治ち長ちやう洞どう會かい都とて。血ち。
 骸がひ積つぐ。思おもく。大おほ將しやう勵り。小せう將しやう指さし揮ひ。小せう將しやう新あらたら。軍ぐんを。軍ぐん遠とほ谷や。
 形かたち處ところあり。寺てらへ。一ひと圓えん小せう火かを。蒐あつむ。的てき的てき。御ご魔ま風ふう烈れつく。吹ふ起おこ根こん。
 本ほん中ちゆう堂どう鐘かね樓ろう鐘かね藏ざう。有あり。佛ぶつ像ざう。善ぜん薩さつ像ざう。八はち百ひやく千せんの。聖せい教きやうを。兵へい一いつ。
 儘まま小せう燒や爛らんせ。一ひとの。心こゝろ慚あはれ。思おもく。政せい殘ざん。僧そう徒と業ごうを。遠とほ辺へん。
 の。谷や際さい形かたち測そくの。嶺ね小せう追お極ごく。逐しゆ迫ぱく。礼らい殺ころを。遠とほ向むか。大おほ將しやう信しん長ちやう。東とう坂さかか。
 大おほ華か表ひょうを。正ただ一ひと。地ち小せう攻こう登とう。諸しよ軍ぐんに。動どう拳けんを。河か野や。心こゝろ地ち下げ。小せう進しん。
 ま。た。た。ま。ふ。茲こゝ。小せう山さん門もんの。危あや徒とら。し。金こん剛かう。お。撲ぶく。こ。の。者ものあり。大おほ力りき。必かな双ふたの。

あり。ぞ。強つよら。せ。よ。く。練れん達たつ。武ぶ術じゆつ小せう奢せり。惡あく僧そう。お。救きう示し。信しん長ちやうの。
 攻こう登とう。小せう鐘かね演えんを。嶺ねく。潛ひそ小せう宮みやう。郭かくの。紫むら小せう川がは。右みぎ住ぢゆう房ぼうを。右みぎ握にぎら。ひ。
 東とう。佛ぶつ教きやう信しん長ちやうを。提てい殿てんと。後ご者しやとも。伴つれを。唯ただ二ふた個こゝろ。如ごと意い。嶺ね小せう。
 攀よぢ。海かい。大おほ樹じゆ。繁はん。溪せき。岩いわ陰いん。小せう松しょう丹たん引ひて。後ご。蒐あつむ。形かたち。も。形かたち。を。信しん長ちやう。
 旗はたか。流りゅう。提てい殿てんを。激げき。提てい殿てんを。馬うまを。正ただ一ひと。心こゝろ。進しん。せ。る。が。の。う。ま。を。騎うま。た。る。馬うま。
 蹄ひづめを。換かへ。と。進しん。得とく。と。備ひ。騎うまの。馬うまを。待まち。ん。と。大おほ華か表ひょうの。小せう馬ばを。
 之これ。指さし揮ひ。せ。る。を。二ふた個こゝろの。信しん長ちやう。小せう腕うでと。手てを。視み。く。大おほ小せう悦えつ。ひ。手て。進しん。く。も。
 相あひ。操さう。と。ら。小せう火かを。狭せまく。善ぜん住ぢゆう房ぼうの。流りゅう。九く。せ。こ。め。射や。通とほ。の。を。し。遠とほ。た。れ。は。
 身み。兼か。の。修しゆ。練れん。遠とほ。時とき。あり。と。粗あら。礮ぱう。と。截き。て。放はな。す。射や。當たう。の。箭や。を。射や。つ。く。
 馬うまの。右みぎ。後ご。丁ていと。射や。敵てき。ら。馬うまの。弦げん。を。吐は。け。の。像ざう。く。四よ足そくを。張は。り。飛と。騰たう。り。
 危あや。や。落らく。馬うまと。見み。へ。り。さ。る。漸ぜん。小せう。達たつ。せ。信しん長ちやう。を。必かな。積つ。備ひ。の。如ごと。跳と。下げ。

信長の
強運
金剛相摸
善住房が
炮火を遁る



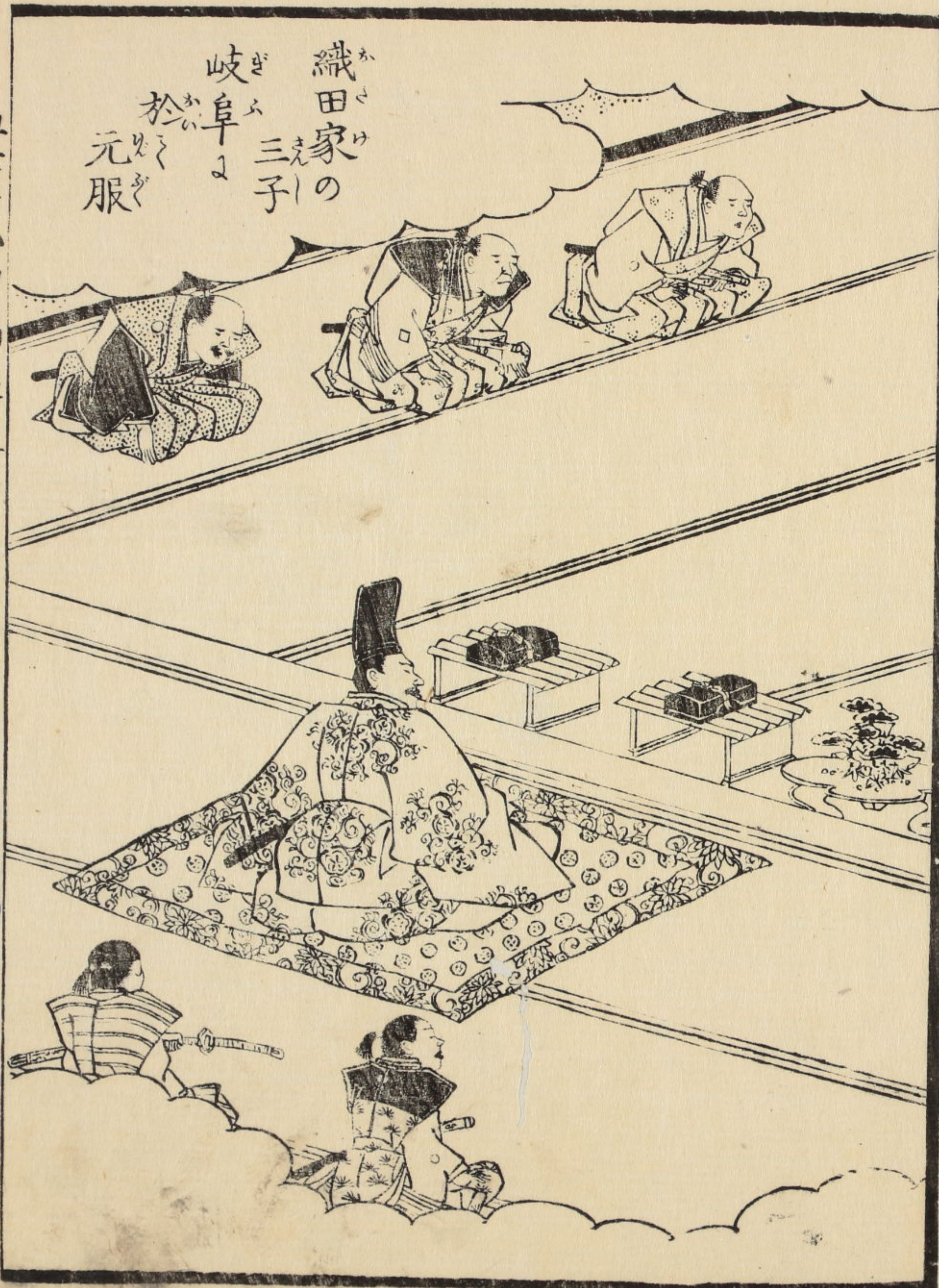
多し令別お換へ最朽憾く。驟断せりて久き剣一く。二筋交を
 截て放し多し小神運つ下れ織田信長體は神を射掃く。後小助へ
 一後まが約より脊まで射事き。血烟きて倒れ仕を近士の門に作
 天を。際もあきざる小杉が火蓋を截て敵軍散る流しとく運の
 強さ小や。たの役を終小掃り流九の樹間へ飛散り。旗本の諸士
 致馬に強きまの仕をよ殿扱と呼り喚り數百人如きお樹と蓋馬甲
 小膽作を二無と小鳥流うも蒐正黒小なりて懸起りる小を。あ倍大
 小懸傷なり。をを小思へどあまも又天命あるかと歎息は。洞の扱
 徑梢と宮部のお業へ。遊流りぬ
 長尾房休秀吉智仁降参属伊黒落珠
 命救へ天小あり人。是せ残害とる事。能をを。お換が。可。精。は。任。房。が

炮術へ鬼神も怖く妙ありながら。西矢。双胞。謀。一。こと。全。く。信。長。の。言。
 運。小。し。て。天。地。一。時。小。崩。り。こ。も。身。命。恙。あ。ら。な。い。一。然。バ。二。人。の。悪。信。を。
 既。小。讀。み。く。逃。走。し。り。と。信。長。傷。を。と。視。る。あ。る。馬。小。射。扱。し。矢。の。
 あり。乃。は。羽。第。も。大。ひ。あ。り。る。由。扱。せ。て。是。と。親。る。あ。る。矢。の。根。へ。三。寸。
 あ。り。得。小。強。氣。の。信。長。も。舌。を。振。か。き。驚。嘆。り。一。皆。く。危。き。事。
 小。こ。そ。遠。量。の。遊。と。身。小。受。な。バ。骨。も。徹。塵。小。せ。る。多。き。小。と。志。之。怖。一。玉。は。
 乃。は。後。の。輪。扱。小。も。な。と。そ。ま。矢。と。固。め。る。世。を。な。ひ。ぬ。後。年。秀。吉。象。於。た。に。勝。て。
 然。不。ど。小。比。叡。山。延。暦。寺。ハ。皆。悉。く。燒。亡。し。一。彈。指。小。火。燧。
 と。あり。二。千。の。衆。徒。も。救。せ。盡。し。て。敵。も。た。ま。有。心。の。旗。軍。ハ。是。を。信。長。
 桓。武。天。皇。山。城。小。平。安。城。と。定。め。る。あ。ひ。一。代。不。朽。帝。都。の。鎮。後。不。
 邊。將。の。あ。る。場。小。し。傳。教。大。師。初。を。奉。草。劍。あ。り。る。山。を。是。が。成。百。歳。

之強^つと^のも。王城^{おうじやう}と山門^{さんもん}の絶^つりし事^{こと}ありけり。信長^{のぶなが}武威^{ぶい}の捷^{てい}
 小強^{こじやう}馬^ま之室^{のむろ}を共^{とも}小燒^{こやう}身^みせし。いふ末^{すえ}世^よの今^{いま}も世^よに。ひと具^{もつ}討^うけ
 むらうんやいと肩^{かた}を顛^{ひそ}めて。勢^{せい}を切^きて。大將^{たいしやう}信長^{のぶなが}の山門^{さんもん}の衆徒^{しゆと}を
 改^か畫^{くわ}して。去^こ来^{らい}より怨^{うらみ}を散^{さん}す。欣悦^{きんえつ}こそ小過^{せうか}べし。と雀^{せき}躍^{えつ}を
 欣^{よろこ}び。ひ則^{すなは}ち地^ち小坂^{せうさか}木^きつ城^{じやう}を構^{かま}備^{べい}志^し賀^が郡^{ぐん}の領^{りやう}地^ちを添^{そへ}く。羽^う智^ち先^{せん}
 秀^{ひで}小^ここまを賜^{たま}ふ。落^おび佐^さ和^わ山^{さん}へ。河^か原^{はら}陣^{じん}あり。小^{せう}谷^{たに}も急^{いそ}小^こ臨^{りん}さ^られ。バ
 一^ひ應^お歸^き城^{じやう}を。一^{いつ}後^ご来^{らい}の政^{せい}事^じ。命^{めい}業^{ごう}さ。同^{どう}月^{げつ}亦^{また}一^{いつ}日^{にち}を。改^か阜^ふ
 一^{いつ}河^か原^{はら}城^{じやう}あり。由^{よし}淺^{せん}井^い家^けより。も望^{ぼう}軍^{ぐん}せ。と姑^{なご}く。世^よに靜^{せい}穩^{えん}なり。と秀^{ひで}
 吉^{きち}禎^{てん}智^ちを走^しら。故^こ方^{かた}に諸^{しよ}士^しを帰^き後^ごさ。と小^{せう}深^{しん}謀^{ぼう}こと。とく。号^{ごう}小^{せう}當^{たう}
 て。東^{とう}流^{りゅう}東^{とう}小^{せう}飯^{はん}を。像^{ざう}く。指^{さし}ま。が。啼^なむ。と。いふ者^{もの}なり。申^{まを}小^{せう}物^{ぶつ}を。宮^{みや}部^ぶに
 城^{じやう}主^{しゆ}持^ぢ。台^{たい}法^{ぽう}。首^{しゆ}任^{にん}房^{ぼう}。の。勇^{ゆう}万^{まん}夫^ふ不^ふ欲^{よく}あり。由^{よし}一^{いつ}渠^けを。降^{かう}休^{きゅう}さ。し。めん。

と秀^{ひで}吉^{きち}と。宮^{みや}部^ぶ小^{せう}判^{はん}。台^{たい}任^{にん}房^{ぼう}。敦^{とん}潤^{じゆん}小^{せう}對^{たい}面^{めん}。威^い儀^ぎと。心^{こころ}を。費^{あつ}
 言^{ごん}を。と。是^{こゝ}下^{した}山^{さん}門^{もん}の衆^{しゆ}徒^とを。離^り散^{さん}す。武^ぶ門^{もん}小^{せう}好^{こう}親^{しん}を。結^{むす}ば。し。こと。是^{こゝ}
 大^{だい}願^{げん}の心^{こころ}を。らん。す。が。誠^{まこと}小^{せう}こまを。謂^いん。原^{げん}来^{らい}出^{しゅつ}家^け法^{ぽう}。修^{しゆ}を。取^とり。佛^{ぶつ}道^{だう}
 を。得^えく。九^く丈^{じやう}を。化^けす。救^{きう}を。も。と。大^{だい}願^{げん}と。を。然^{しか}る。小^{せう}戰^{せん}國^{こく}乱^{らん}世^{せい}の。れ。が。
 遠^{とほ}き。苦^{くる}切^{せつ}の。涙^{なみだ}後^ごより。の。戰^{せん}闘^{とう}の。世^よを。平^{へい}鎮^{ちん}す。萬^{まん}民^{みん}塗^と炭^{たん}の。苦^{くる}を。救^{きう}
 へ。是^{こゝ}小^{せう}越^{えつ}。善^{ぜん}事^じの。あ。ら。じ。と。發^{はつ}起^きす。一^{いつ}字^じ簡^{かん}。小^{せう}佛^{ぶつ}法^{ぽう}を。兼^{けん}武^ぶ
 術^{じゆつ}を。學^{まな}び。誦^{じゆ}經^{きやう}せ。じ。て。云^い書^{しよ}を。讀^{よみ}良^らま。小^{せう}仕^して。私^し國^{こく}を。漢^{かん}め。ん。の。の。
 心^{こころ}を。と。や。是^{こゝ}誠^{まこと}小^{せう}天^{てん}小^{せう}稱^{しやう}ひ。神^{しん}明^{めい}佛^{ぶつ}陀^たも。背^せ面^{めん}を。多^{おほ}く。然^{しか}る。と。い。ふ。の。の。
 志^しの。と。し。て。い。ふ。と。その。天^{てん}運^{うん}小^{せう}諧^{わい}を。と。と。取^とり。謂^いん。と。是^{こゝ}推^{おし}小^{せう}淺^{せん}井^{せい}を。
 の。川^{がは}に。か。と。ま。る。の。才^{さい}能^{にやう}を。招^{まね}く。種^{たね}あり。又^{また}越^{えつ}前^{ぜん}の。船^{ふね}倉^{くら}の。天^{てん}子^しを。桃^{もも}介^け
 公^{こう}弟^{てい}小^{せう}甘^{かん}。り。と。我^{われ}京^{きやう}小^{せう}一^{いつ}才^{さい}を。長^{なが}政^{せい}の。是^{こゝ}運^{うん}徒^とあり。尚^{なほ}所^{ところ}志^しを。遂^{すい}んと

織田家の
三子
岐阜の
於元服



豊臣記四編卷之十一



豊臣記四編卷之十一

あり六時運せ料て天小順ひ吹疎小帰して烈忠一玉へ今信長へ公旁せ
 補法一四海一統なさいめん事来あざと成就せん然をれば是下の
 願も備ひ道心満是あざとと理と貴道と推されが致潤不志は
 心根と當を屈獲ひて折意と立此上も猶同志とる高郡徳川の西
 伊黒の城を宝永水房と名撥りて織田家小降参をたれば御所
 軍一く提督とあへて望く約と別をり元徳二年も既暮て明は
 二条中兵衛長波卓小越来あり。歳旦は禮形の儼く遠月吉原
 と撥もきて二個の御曹子元後あり。嫡子奇妙丸とて勅九郎信忠
此歳十と弼らせ二男茶釜丸辨別は信長のと北畠之助信雄と号らせ二男
五歳也
 秀丸辨別は信長のと神戸之七郎信孝と号らせ各波卓の城中にて同日
 小首後と加へらる君臣上下最蒙る儀式あり。此時に別換山は

城を本下孫吉身秀吉も兼備る御元彼の御悦とて波卓波卓系
 城せりまらる。禮賀終りてその序小波井邊治の事あり。小宮部此
 城を若任房と稱仕りしめ置る事種々相譚あり。多由へ感悦斜
 ろとじてに別の後ハ秀吉小任と見よし。今せらる。本下もまた大切の城
 番にまはる。長来とて。發く。御別謝賜りてに別當とて。此に
 波井邊治の横山城の實を合と所。本下在る。其に際小彼一城と攻
 陥さんと五千餘騎少攻さる。留守へ行中重治あり。御と盡く
 防衛あり。とて。八百小足とぬ小堀もまはる。遂小提督とる。破らる。最免
 くを見へる。本下秀吉帰城して。遠敵小堀もて。敵を右後
 左横小遣たり。秀吉城中小遣投る。重治細め防衛の營士と厚く。旁
 らひ破換と修補して持固め防具嚴重小あり。故に再び敵も

豊田記 四巻

十一

せむ。向念むかひをむかり小日こひを送かる。然しかる小宮部こみやべの善住房ぜんぢゆうぼうの去来きこ本下ほんかと監まり
 約やくして織田家おだけ小降こくだらる準備じゆんびしる。切せて國友くにとものい城じやうも破やぶりて降くだる
 の證あかし小宮さんこみやさんと自隊じぢたいのい士し二百にひゃく余人よちうじん野村のむらを庫くらり凝こちりる。玉友村たまともむらの
 紫むらさ小押進おしぢんせ計けいて一遭ひとぢゆう備びといいども。野村のむらが從士じゆうし孫岡まごかみ友ともを向むかうる。院いん小
 言こと殺ころす。捕とらへく擊うち抜ぬき。殆たいてい危あやふりる。と友田ともた近ぢん左さ門もん下かげけらる。北きた
 中なりて退ひく。小本下こほんかが加藤かたてここ。加藤かたて虎こ之の助すけ清きよい。二百にひゃく余よ騎き小こ後ご援えん
 せせく。善住房ぜんぢゆうぼうのいままはは小種こね生なし。難なんく宮部みやべへ退ひく。これ小信こしん
 善住房ぜんぢゆうぼうへ秀吉ひでよしが懇切こんせつと感謝かんしゃ日ひと終はる。地蔵ぢざう平へい愈いりる。いいままはは
 兼かね本下ほんか小納こなせ。ままの伊豆いずの城主ぢゆうしゆ宝泉房ほうせんぼうを將佐しやうさ小せんせんとと屢しばしばこれを
 勅しやくめりる。小こをを是こも全おく織田家おだけ小降こくだら仕し。公方こうほう家けへ將佐しやうさと号ごうし。
 淺井あさひへ敵對てきたいのいままををああいいる。長政ながまさ新あらたと所ところよりも烈火れつゐの像ようく情じやう恐おそはし。

丹地にちぢ小謀こぼう伐せむ。んんがああじじと同年どうねん四月しがつ十二日にじふにち長政ながまさとと出馬しゅつばし。二千
 余よ騎き小こ推おす。伊豆いずの城じやう中ちゆう小堀こぼりもも領りやうく。事ことをを六む六むああり
 驚おどろく。色いろをを増まし。家宰けささい堀ほりに傳つたへ。武道ぶどう功こう者しやはは勇士ゆうしととああり。
 一面いっぺん関せきをを嚴げんく防ぼぎし。かかどどに進しんむ。右みぎをを攻せめ。却かえり。後ご車くるまの換かむ。
 ののままで。茲こゝ小港こみなと別わかれ孫まご孫まごはは箕ひら人ひと日根野ひねの備び中ちゆう中ちゆう弘就ひろしゆ同どう孫まご二ふた左ひだり門もんにに繼ついでい。
 先せん兼かね本下ほんか小納こなせ。ままの伊豆いずの城主ぢゆうしゆ宝泉房ほうせんぼうを將佐しやうさ小せんせんとと屢しばしばこれを
 朝倉あさくらと情じやうをを日根野ひねの兄あに弟あにの淺井あさひと頼たのむ。小宮こみや小遊こゆう客きやくし。長なが
 政まさ欣よろこびて是こゝをを用もちひ。厚あつく款待かんだいかかりる。遠とほ道みち長政ながまさ伊豆いずをを攻せむ。と自じ
 出馬しゅつばなり。弘就ひろしゆ弘就ひろしゆも出軍しゅつぐん中ちゆう中ちゆうあり。長政ながまさ日根野ひねの及およびて
 招まねぐ。形かたち當城あたらしを攻せむ。とといいども。進しん時とき小落城こらくじやうなり。方術ほうじゆつあり。やと
 訊きる。小兄こあに備中びちゆう守まもり。城じやう中ちゆう中ちゆうにに德とくをを試しす。小切こせき要よう産さんもも自じ

豊田記四編卷之二

十一



磯野
 丹波守
 あがむ
 伊黒攻め
 日根野が
 智計

伊黒攻め
 日根野が
 智計



伊黒攻め
 日根野が
 智計

十二

うね城を頼むいあさるべきと後援は勢を後れはるゝん定め
 明更にも早らむべ後援の勢来るべきは行時も程遠ありし。この上は
 只後援の語を断截て城を攻至るべ軍城久しうて計るべし。と之計策
 へ形程くと告る小長政感悦はし。然る早計とて。と之計策を
 二隊小ころち一千餘騎と日根野小與へ長政二子の云せりて城を攻
 んと準備はし。東西南北の士と宝泉房を密使小敷成磯時が
 濃守るる鴻の城小馳遣えし。伊黒の後援を謂密なる小敷磯野
 矢正こもを所噫時至るる長政の現立我母の悲歎あり。先伊
 黒城小後援と後井城を斬崩し。怒怒のあつとけ空さんめと速時小出軍
 の準備を頼む信長は軍約あり。將佐とて城小におく。後井戦を
 推さるる小相救ふべしと。東謀さるる小より。何の憚る事なりとて。

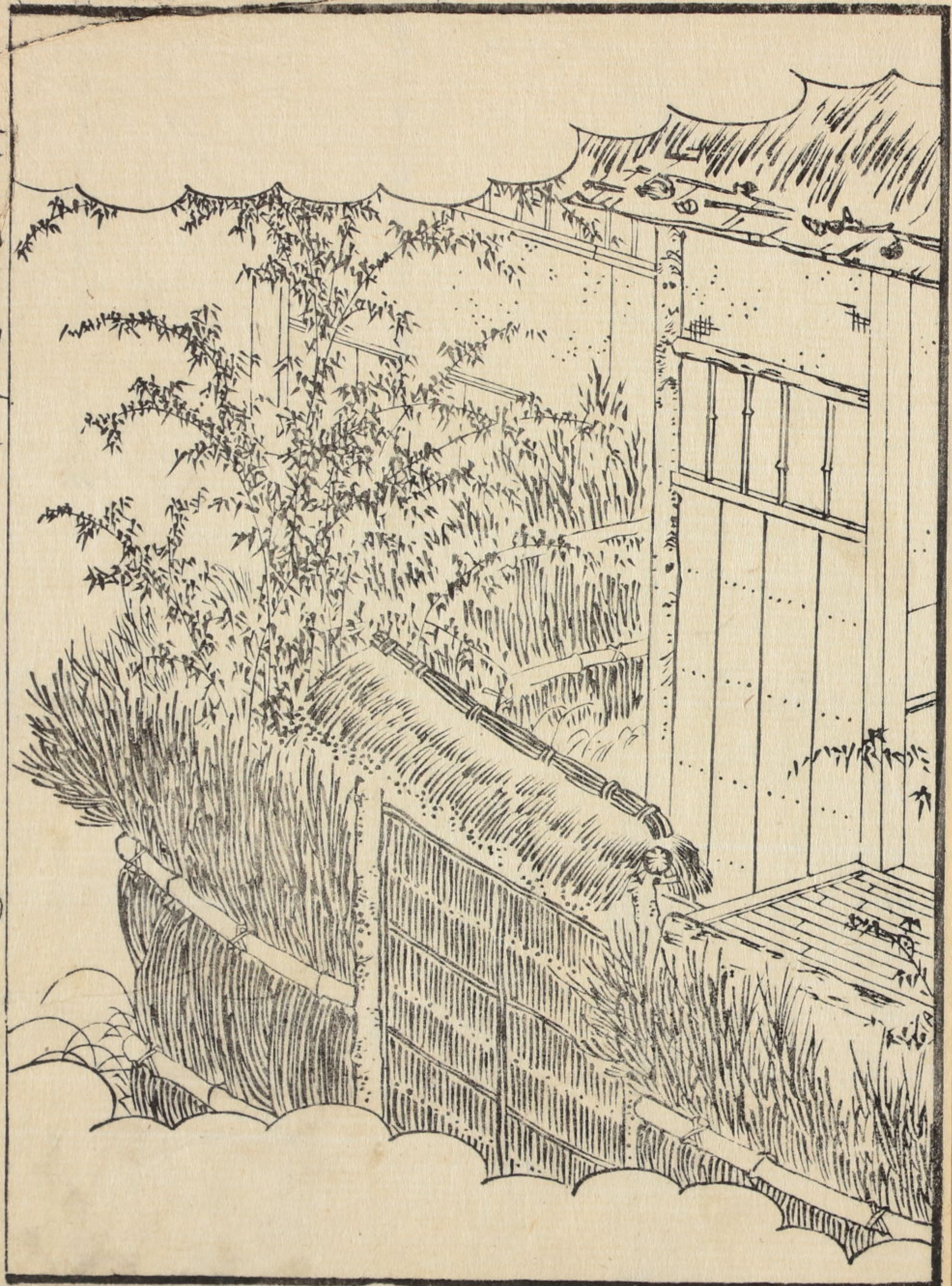
傾繞る五百餘騎樓小探てぞ推出を彼欺使はを降りて。磯野が返
 答せ告るる小長政こもを日根野小傳ふ兄才ハ事成り。とす。又將
 小謀合て磯野が進来た。路條へ埋伏せしと相待り。丹波も初も
 知るる伊黒の城は後援ありと。是繞ましく呼り起長政の脊筋より
 起起んと。備前ちハ二千餘騎と二隊小領て隊伍を整し。一千餘騎
 へ城小向をせ。小長政の後援の款と進まると構へ。と。磯野が
 来ると此も怖まむ。双軍際なく近づれり。後井の後陣赤尾兵
 濃也。同影を湯同影助父子二人。活く磯野小撃て。薙る威の言を所
 よりも埋伏せし。日根野が軍勢背面の旁より。發起。前後一夜小
 攻起るる。小長政より告る。身も小愕き。礼起るる。不と智勇。猶も一日根
 野才隙際ありせ。さうも起るる。得小極。丹波も。霧せりて。

豊後言四續卷之二

十三

小部一とく。乃ふす。其部を量りて一方の處せうち破る。其時當りて
 遠く遠國を統さる當城とも一時小攻て臨ま。と名流せうち
 薙威と繁徳一級小攻起る。城中のそい磯野の後援取れと所
 へ。防ぎ戦ふ隊も後。勇臣の色見え。由日根野に寄
 へ。正魁小積謀を系越。非投。城内の堀に仲右衛門二の丸小透て
 見せ。敵んときびく。提綱むと。赤尾父子。續て。系投。逆小堀に
 段提。ま。城をぬぐ。提。つ。或の落。或の降。室泉。席も危
 急。と。道。い。く。とも。ひ。落。失。た。ま。容易。伊。連。を。系。雨。て。長。政。毒
 悦の眉と開き。日根野兄弟が智勇と感。小部。入。帰。謀。せ。ま。り
 重治。智。信。日。根。野。兄弟。属。信。忠。初。戦
 大小憤怒と鼓を響。自。己。が。身。を。桂。とい。ども。痛

幸。と。覺。と。と。名。淡。井。長。政。形。量。の。鑑。察。を。以。て。大。將。を。ね。と。懐。二。脚。を。り
 小。自。軍。せ。り。て。自。軍。と。敵。是。當。家。に。滅。ぶ。場。あり。然。る。小。木。下
 孫。吉。部。ハ。伊。黒。落。城。磯。野。敗。軍。の。緯。と。所。懐。然。と。一。と。警。備。を。磯
 野。方。へ。使。者。と。達。軍。に。次。弟。と。訊。ぬ。小。日。根。野。兄弟。が。軍。配。と。缺。漏。も。な
 く。若。ら。し。く。秀。吉。と。是。と。所。く。益。悻。と。誠。小。日。根。野。の。名。譽。の。武士。に
 渠。何。足。り。替。力。を。竭。長。政。と。よく。補。弼。せ。ば。自。軍。の。ため。小。大。款。たり。
 いかも。ひ。と。彼。見。才。を。將。佐。に。さ。ま。く。思。ひ。たる。由。一。竹。中。半。兵。衛。を。招。候。の。の
 計。策。と。密。諜。も。小。重。治。も。大。嘆。下。日。根。野。の。容易。に。武士。を。ら。ね。ハ。如何
 不。と。説。とも。降。ま。し。然。ら。ば。渠。何。せ。り。て。淡。井。小。將。佐。を。を。ん。ハ。愁。ふ
 る。重。治。の。一。一。願。ハ。あ。ら。ま。と。重。と。少。と。秀。吉。も。あ。ま。不。隨。ハ。竹。中。を。頼。り
 たる。由。一。重。治。速。時。小。準備。を。窺。を。一。一。決。と。り。獨。小。部。の。城。下。小。部。日。根



豊臣諸臣



竹中重治
 理と竭し
 日根野
 兄弟と
 説く

豊臣諸臣

評 拙家を訊討め古人對面なり。此は謂客なる小機曾とくも只身家
 小車一のバ難小やあると途へ請對面する小形といふは日濃列の軍師と崇
 一。行中守重治の由へ兄弟の者大小愕きまづ座を進めて別後
 を語り。慈く備中守訊ぬるを貴降ハ先年織田家小属。解衆
 業ありと聞つる。肩へ露出の衣を廻小被最寔にき不依して俺們
 を同訊一。其ふこと急密なる縁故ぞと問を重治是小何遠所ある
 と聞。旧好の懐柔くこまむ寸志を識せ。要さん。め借く辱來へるを升も
 是小何の心小我秋藤の家を捨織田小属せ。舉止を。道の前と
 かりあらんが如く。乃史ハ角發の初より。他小對して。語ふこと。虚
 妄。言語を發せ。緯なり。我天眼ハありぬども。時運を察し。諸民を
 憐。一。遺織田家小属せ。と。信長より。毛領福を奉。され。は。は。は。

曾てき。維本下仁義を感。一。因又とらて天下の。め小軍奉の。更
 せ。その。の。秋藤。龍興。愚昧。小。人國。を守。る。器。量。を。是。と。小
 補佐。を。も。天。命。適。を。ぬ。取。小。と。滅。せ。ん。事。服。を。ま。は。濃。列。を。も
 て。他。人。小。附。與。國。民。を。恨。く。て。秋。藤。は。種。を。毀。ん。より。縁。ある。信。長。の。腹
 と。妻。小。糖。の。な。道。理。を。と。い。ふ。も。あ。じ。と。枉。く。秋。藤。は。没。落。を。余。不
 小。看。行。て。あ。つ。も。是。中。ハ。民。の。こ。め。第。二。ハ。秋。藤。家。は。新。絶。せ。る。上。ま。を
 以。て。為。さ。ら。り。此。小。同。く。會。才。た。る。秋。藤。新。立。席。ハ。今。歴。代。と。織。田。家
 小。あり。信。長。の。恩。賞。殊。小。淺。く。も。會。乃。史。が。織。田。小。属。す。最。初。の。約
 束。ま。は。り。果。く。濃。列。平。定。な。り。國。民。安。樂。の。天。を。傾。く。慈。く。小。足。下。小。何
 稲。葉。山。と。退。去。せ。ら。る。君。臣。も。小。東。西。と。あり。る。以。初。天。ハ。依。り。ま。小。何
 助。せ。ら。る。已。後。と。好。小。あり。と。所。一。が。今。亦。淺。井。小。遊。宴。を。緯。こ。も。天。命。ハ

ぶるをどしと持てて合都く置けり。後門あり。この好の逆徒のいふ
 不及を朝倉ももつ愚将中へ公方へ不忠義の罪科あり。滅没の响達
 くるはし。願の倉と投けて必く。義ありとおのし。井長政。勿論を結と
 する。小腰をどし下。倅兄弟。龍奥と守護して。兵濃と遊死なぐ。身の相交
 と老を。朝倉。浅井。家運。信死。を道の所為とも。顧を。天を。虎の。まは。若
 悩と増し。め。主。從。槽。櫓。の。間。小。あり。て。活。石。の。死。せ。い。さ。さ。う。鎌。實。の。若。臣
 あり。や。否。や。信義の道理を察至る。形。不。倅。し。死。縛。あり。ん。情。も。器。と。抱
 たる。人の。淵。小。投。む。る。聲。冷。あり。嘆。息。と。さ。う。小。腰。と。ま。は。遠。と。ま。ん。が。こ。め。小。ま
 たり。別。條。小。舒。演。む。き。禱。も。な。さ。し。從。よ。く。思。慮。と。遠。ら。し。身。の。安。穩
 と。料。理。せ。る。な。へ。と。落。び。譚。話。の。詞。も。な。く。突。と。座。を。禱。て。帰。り。たる。兄。弟
 の。跡。小。惘。然。と。し。て。宛。合。酒。小。醉。る。像。く。霎。時。詞。も。な。り。し。が。熟。く。思。ひ

編らる。小。竹。中。半。三。郎。が。東。せ。一。死。一。至。理。の。論。多。し。主人。龍。奥。と。思。て
 情。ふ。く。こ。も。小。濃。別。と。退。去。と。ま。さ。し。こ。も。補。弼。と。さ。し。小。術。な。り。も。或。時。に。別
 の。依。々。木。と。情。く。或。い。と。好。小。投。助。せ。られ。又。浅。井。家。小。宿。家。と。結。合
 災。禍。と。招。く。門。あり。ま。義。系。の。弱。將。小。し。信。長。小。勝。人。と。さ。か。り。ひ。も
 よ。う。と。浅。井。と。勇。将。と。い。ふ。も。久。政。愚。直。一。途。小。し。く。謀。士。の。諫。小。疎。と。ぞ。
 是。滅。亡。の。清。き。ま。俺。們。が。く。技。助。せ。る。情。憐。と。兼。ひ。恩。義。我。小。繫。累。が。れ。
 禱。と。結。と。ぬ。の。め。あ。さ。し。遠。わ。い。他人。の。戦。中。小。死。死。せん。も。料。理。が。く。困
 窮。の。う。ち。小。才。抱。と。活。成。も。天。運。と。後。こ。め。る。小。濃。の。魁。の。御。技。が。一。と。て。
 こ。好。小。倉。浅。井。と。情。く。遠。分。と。掃。け。し。復。く。も。嫉。妬。あり。君。臣
 別。して。容。へ。る。禱。も。龍。奥。俺。們。が。諫。と。用。ひ。む。流。宴。の。周。苦。と。忘。れ。ひ。富
 貴。と。羨。む。意。あり。由。一。休。こ。と。と。得。む。朝。倉。浅。井。と。結。し。禱。と。詔。ひ

ぐら再び家名と興さん小義系長政と督力とをさし望止満足はし
 と見身御と割くたう。密詮教割りたる。備中ちり粟をう。別重治
 守報小まも同若少く不忠不義の悪作あり。亦ふらあ俺們兄弟自ら
 丈夫の勇士小比しく名譽をせ末世小傳流さまく思ふ意も今の像く謀
 安途の思案たるこそ。簡要なきと謂うべ。然るバ迷地小他國へ越さくは後
 小ましく始終全き偉あじ然ども栖家身個のを思ふことも主君
 と前合を朝倉氏を離るる。方術をりて謀らふべ。然る急小ら

成さうらんそ所謂ハ躬倉義系弱愚昧ありともども長家小
 湯ひんどの思慮ある輩多きとばるせ餌多小俺們と勾引せん
 とまろ小思慮らぬとめ別居急小退去の事と謀らば主後の身
 小害あるべ。遠以後ハこの時賊とて落命と懸けた右小恩と
 是小隨ひ姑く近江小住りて。就真が方へ潜小通下。越前退去は事と
 計る小孫三右衛門が朝小違を志。能與彼地小行し。と壁便、妙善家の
 勇長謀士と招き下せんと計る。けり。是と切小食意を志。能與原東
 娘酒とめめ計らるるとの知むと。能與荒む小義系も又さし。又車と

得たりと思ひ言ふと書くと進まざるは龍典も是小婿縮ひ勿く安
 樂のちりひ好まば退くべし意とらふは備まらば藤吉帝八日根野
 見守と赤人と竹中小計とせざる小重治小治よりを帰る渠係見守を
 説く朝日八日根野が心中も親家とて結所と小秀吉と後同者
 のて見守が奉止を窺はとまば一層案し煩ふ態小治井を助る業凡
 もわいと云くろくまは大小依び唯已後ハ見守と自方小婿依ははゆんと
 計策とて廻西なる向小同系七月十九日信長嫡男勘九郎信忠
 破草小治と後初親式ある信長諸士と誅滅と然が勘九郎が初
 戦小北近江に出馬す小治境を一撃とす同日破草と数足せられ
 破草の軍勢を率し玉ひ十日小治小治より虎折山雲雀山小本陣を
 と居をりま小治を攻る魁隊の自將ハ柴田勝家佐久間信盛本下

秀吉丹羽長秀蜂屋頼隆の五人小命を各自勢を引率し小治の
 街巷を破壊株小推進淺井城を匂出さんと之は丸中を急と推
 極りまとも城は織田の猛威小恐怖し防門をせ守固めて敵一人も
 出合がまば織田城十小遊坊々軍威を急し引退く藤吉帝ハ
 日根野が安否を長政と推助らふや竹中が調ふ小心惑ふと退く小やと
 その誠小之の丸中を嚴し攻進ししとも日根野ハからつ發来一人
 出合とて事休ぬ第一渠係見守と他の要害ハ加勢とて遣しとら
 ん陣のやと淺井家大切の守城とら山本珠を攻とせざる小阿国治
 治也安養寺之部を急防戦とらと遠地小日根野ハ見守と
 りり素より猛軍の本下勢暫時の軍小敵首六十余級とらち授とて
 日をて四色と放火し破竹の像と烈威を顯し本陣虎折山邊と

信長の所感斜めを勇悦限るなり

前波吉継母に降徳田家馬腰坂極勇

國家の難を嬢より入るなり。五戒は不嬢の五常の禮あり嬢せ

まば禮おのづから達さし理おきて親出を躬倉家の内におり越常の奉

行職隨一の功老おて前波九郎を湯吉継といふありあり軍も味さ

傳りぬど色慾の世の分別外さうは流せば家小溺惑の事こそ發る

是遠前波が部下小大野佐右衛門といふは有る。一個の嬢せりちる

が老や集鷹と生るの嬢の宮色は深なること。昭若西純の國久

小も備より。月蓋花もこまやあらん吉継の心を無て親の自己の

部下のまば密小こまを懸望なり。父子とも諸約ありしは九郎を湯吉

妻とて。密意漏さすと期りたる小遠頃朝倉は密分する。秋篠治部

純真の弱糸小く思意淺き。放逸を緯論を弄らる。其を義系が

登夜と相く酒蕪とりつて登夜なる人。匠作よく正しく増て色

小荒む性あり。過小く春法末なるが。酒典小糸とて城中を花小准へ

漫歩し。不斗大野佐右衛門が川邊をさつ。た右小看ま。一個の飛女吹

の枝を賣女小く折らせ思ひ有げある。形名とて純真の旁を視りし。室

月小奇香あると。疑ひ花の結言人とさると怪しむ。純真こまを

るよりも。恍惚とて骨肉も消らるむ。小執念し。まど身法果な。小

羞殺て遠情ありと。義系小露。臨小も詔得と。心悟。純真と九郎も

過し。金風吹。當天小く。多るが。忍び。て。一夜の酒宴小。四傍小。傳り。他も

ひ。ま。純真耳小。口を。大野の嬢を。譚る。義系。所。く。荒。爾。と

嘆ひ。是。下。が。情。小。詔。ふ。り。結。ひ。執。者。小。も。お。ま。我。下。諱。り。つ。て。早。速。吸。取。



齋藤
龍興
前波
吉繼
恋着



まわらまぐ。と心算く謀る小を純真かひえを雀躍しく。欣悦する。輝多
 遭今宵小も暫譚調えんと。欣會も忘る。候居り。義系はる。習ふ。命
 じ。彼女が素姓と。詰さる。小大野佐右衛門が。子あは。は。早速入を。出
 じ。と習ひの。の。より。は。為。増。せ。り。て。純。真。の。意。を。と。と。と。言。渡。を。佐。右。衛。門
 輝。小。う。ち。情。を。迷。惑。の。態。あ。つ。ま。い。近。習。の。者。こ。ま。と。討。り。何。縁。故。所
 奉。ま。ふ。さ。ぬ。や。と。鞠。問。せ。ら。ま。て。猶。更。小。前。法。が。妻。小。せ。と。も。謂。ま。ま。
 雲。時。應。小。恨。ま。し。が。涙。く。小。顔。を。指。け。詮。意。膜。洋。と。ま。つ。つ。と。の。栗。せ
 とも。縁。名。の。義。の。親。一。個。の。我。意。を。の。り。も。料理。が。じ。娘。小。も。よく。面。家
 所。せ。願。後。来。新。意。中。べ。と。て。汗。を。振。り。て。去。り。娘。小。と。言。れ。ば
 渠。も。も。ど。う。の。情。さ。ら。ん。一。端。古。往。と。契。ま。ま。と。今。さ。ら。外。人。小。傳。く。言
 や。只。願。淨。救。と。奉。じ。し。と。嘆。息。を。て。居。る。際。も。再。之。義。系。の。傳。候。を

ま。ば。詮。術。な。く。て。吉。継。小。詮。意。の。怪。と。物。語。を。吉。継。所。て。是。ハ。長。策。大。地。が
 小。半。と。定。る。丈。の。み。れ。由。へ。主人。小。も。形。取。の。詞。を。命。ま。ら。ん。と。と。士。小。便
 て。自。言。ある。よし。准。法。小。前。と。さ。り。義。系。と。じ。氣。色。を。振。下。彼。女。子。言
 継。が。妾。小。も。せ。願。ハ。内。縁。の。傳。小。と。明。白。少。の。意。さ。る。ほ。し。詞。や。一。端。純。真
 が。懇。望。せ。と。ま。詰。さ。る。今。更。愛。物。せ。ら。る。べ。也。定。ま。ら。ま。事。と。り。ハ。あ。ら
 と。我。小。前。と。て。妾。と。一。置。バ。不。義。密。通。小。等。と。さ。る。べ。し。吉。継。回。功。也。と。も
 て。ま。罪。を。敢。て。我。も。ま。し。知。さ。る。分。小。て。摺。べ。女。法。傳。ハ。片。時。も。た。や。く
 兼。藤。氏。へ。系。中。せ。違。背。の。ま。ま。父。子。と。も。小。謀。と。と。れ。ど。と。罵。り。つ。る。小。を。と
 士。大。小。恐。怖。な。り。吉。継。ハ。密。に。告。知。せ。佐。右。衛。門。旁。へ。該。令。小。使。者
 嚴。脩。小。前。遣。は。し。娘。と。純。真。へ。送。り。せ。ら。る。吉。継。心。中。撥。裂。如。く。膜。意
 骨。髓。小。徹。到。り。お。の。ま。純。真。娘。酒。小。純。也。と。か。妻。と。り。て。集。部。と。て。純。真。と

心を條不義と申謂はん。と道と申いん。活々奸賊と此地小おの逆出ま
 家の滅ころるべし。渠を除いて後江患の根を断截と驚憤を散せん。の
 と部下より富田彌六郎増井と内毛を猪之助の二人とす。撥ら
 國家のこめ小徳興を殿扱はん。とを政企する。義系はもと権威をのりて
 常波吉継を妾と棄ひ龍興を許へ聘らしめ吉継定めて不使はん。心
 を属し寵ひし。小九郎も亦憤怒の余り出仕をせざる。言をを恨
 むる氣あつふより。備へ吉継を恨み小おのひらんと是より君臣誅
 遠とたる。とまのそりて近士の軍常波吉継を密謀といふ事を知り
 乃ん義系小おと告ぐる。由(愚將のひごる。時小撃出し害
 せん。と鳥居を庫高橋を舟小禪ト云ふ。遠西人の侮の徳されハ
 露見小事とるさん。欺帯て謀し。と密禪殺刻り。响池田某入

小おと行所。小おのふて吉継小遠密謀を通り。九郎を衛大
 小操怒ひし。君とて道なきも。はくこの道と。おひと道の道を
 加護がゆ。小國の仇。龍興を除く。ゆのと辛若とある。と打て我身
 小徳と加ふ。周味論小絶し。遠信誘害せらさん。よりハ方便を以
 く龍興を殺害せむん。あるがごと。と富田増井を召し。池田
 が懇切の情をのりて。報せし。秘を問答。禪吾方僕生死の涯境あり。各
 助力を憐れ。と謂ふ。と増井。と内毛。と遠。お及ひて。計謀も。龍。徒小
 終死せらさん。より。借小徳田家小降参る。邪を伐正を捕侍をて。
 名と万世小残流さん。こと勇士の願ふ所あり。と詞を烈して。初め。小
 足毛。富田の。人も異に。同根小誘。初。と。忠信。あり。吉継も。遂小
 心身。或。乱。て。遠。計。策。小。同意。を。國。と。速。く。方。術。を。謀。して。ま。が。若。波。を



前皮吉継
 増田毛谷の
 非草と
 伴ひ
 織田の
 陣
 降参



潜走して後地小残りし三個の古継が之の據る事と孰知軍の由らざる
 乃其義系が前小出方儀兼所むが元波九郎多清自據を率て出奔
 せし是後事少あらざるべし。俺們之人を率ひ追蒐て活捉
 せらん。こまを許容させぬふやと實やうふ言はしむが義系こまを
 欺謀と為しを後追蒐と敷圍地を兼所り之人偕小自家小降之
 自を率果し。若もかく城門と馳出。府中小と古継小追蒐心
 寧しと一抄小夜と日小續ぐ近江小来り大澤次郎左衛門小縁好の由
 ば大い小怖憑て降参を本下追を重投事始末を訴ふる小本小察
 量るるも疑を遂てこまを調糸大將信長小云出て四人の降参を
 許容せしむ。こま小よて元波の恩を謝してぞ帰休を儲けし
 物倉義系の前波出入出奔して織田家小降参せし。傳を追く治伸

所らる由一疎網をて過せりと後悔をこまも還らざるべし。彼此小心願ふて
 浅井長政先達より加勢の事と謂ふまじもこまをこめ小延引せり。
 儲けし近江小出張せし。織田陣心忠信長ハ小首を名とて乱妨を
 事目くひれも切らざる由久政長政堪ふの越前へ使者をて。救急をも
 とむら驛馬の氣系向きの花が如し。義系今ハ棄置せし。まが魁軍と
 しく景鏡小五十の多士を引率を直地小小首小忌陣しく浅井長
 政小静力を勤む小首の之後こまを得く。微些心と寧んトこまも織田
 家の大軍敵が。城を固めて相打ち。然れど小秀吉ハ禰へ信長ハ公
 條し。虎御前山小城堀を流す。小首と直市小親下して。敵の軍機を
 知し。浅井家自然小妻来りて。城を遠くべしと勅めたる。親原をこま
 宛小首の向敵中同様の場不るむ守るべき事。彼ふまじと等圍し

く置まけり。本下秀吉遠般出陣こそ、樂便の遠勢威小是。此
を論ぜども、此を流した玉へしと、頗小効め、重さなるゆへ、然る早く準
備せよ。佐々内亮助福富平左衛門と奉行せり。筑城の結構を余
屬ら同月廿七日にて、秋祭を行き、夜に日小次ぐ急速玉へ今
迄修理は事小ひて、防衛の準備簡要ありとて、柴田備前本下秀
吉佐久間信盛丹羽長秀、蜂谷頼隆、遠江將家、自城の精を以て
虎河前山と小谷の間を、風も容まると断截して、浅井新倉の懸護とせ
ら。後陣小池田信輝、内藤孫次、堀内儀不破、河内中津、小
隊佐と違、山本山の懸防とて、九毛、高津、額市、松丸、九郎、本下、水野、下
野、中川、八郎、右衛門、儀を當向り、小谷城、小谷、井、長政、織田、者、備の
隊佐と違、虎河前山、小城を築く。厥、野、儀、と、見、る、より、新、大、事、の

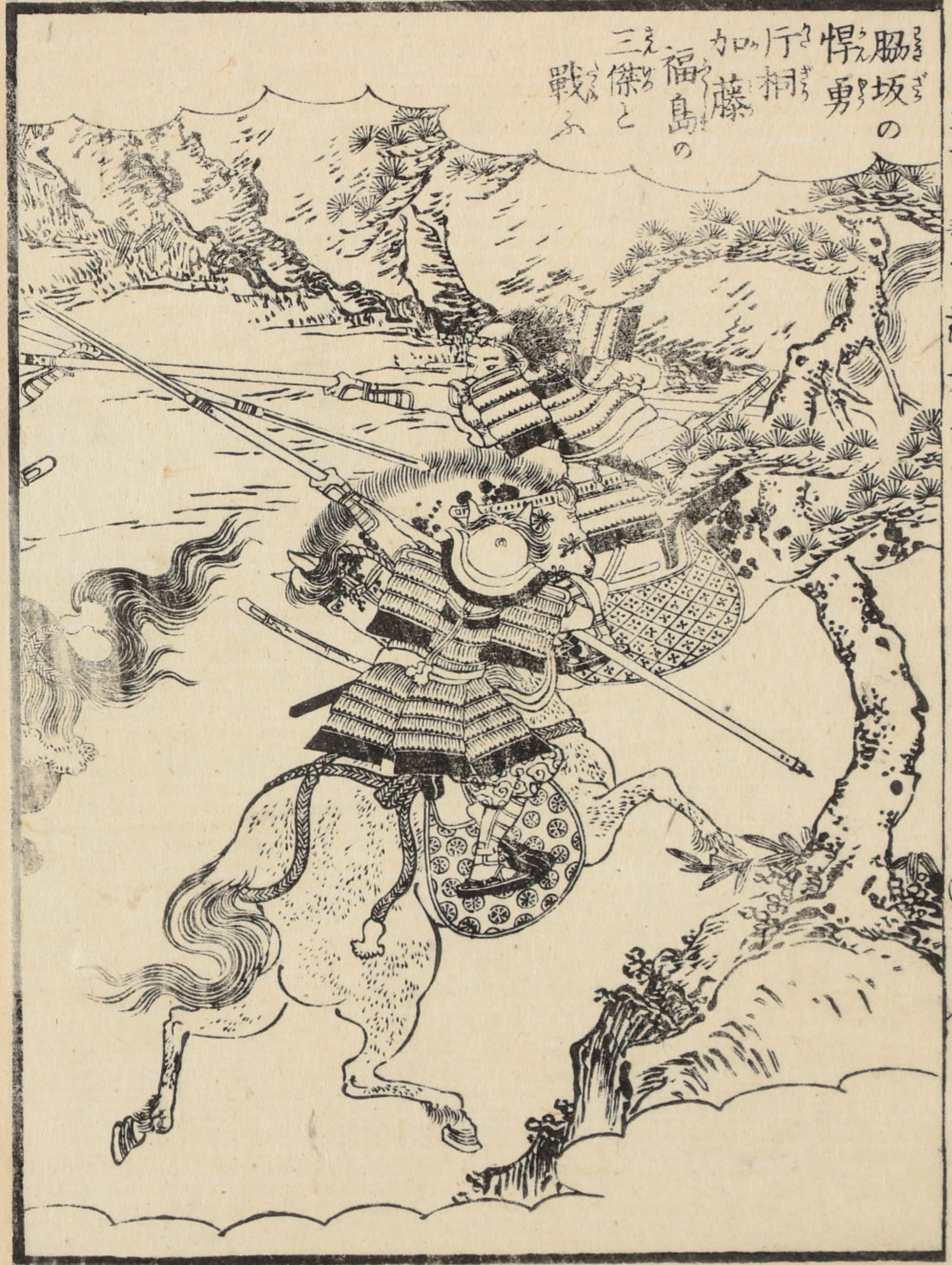
陣こそ、敷るは、彼、山、小城を築くも、自、勇、始、非、老、ひ、一、合、戦、と、始、け、ん、と
一、陣、小、お、り、と、猶、り、と、義、系、出、馬、せ、り、小、谷、と、合、士、激、さ、ま、り、兼、り、と、越、
若、へ、使、者、と、走、ら、せ、り、出、馬、の、儀、使、頼、り、義、系、と、こ、と、察、し、ら、る、ゆ、へ、
刻、い、走、引、り、と、早、速、出、馬、一、校、ぶ、と、二、系、余、騎、と、引、率、り、一、系、
と、合、と、突、撃、せ、り、是、當、天、の、柳、ヶ、瀬、小、谷、陣、あり、翌、朝、小、谷、(出、張、り、と、大、新、
の、林、小、谷、陣、を、信、長、と、ま、と、討、賢、あり、旗、中、北、勢、と、林、小、お、り、と、小、お、
陣、と、固、め、ら、る、朝、倉、小、向、と、對、陣、あり、ま、ら、兵、勢、小、谷、陣、と、傳、へ、威、の、声、を、提、
さ、せ、至、ふ、朝、倉、勢、も、劣、ら、し、と、丙、戌、の、声、を、合、せ、り、長、政、と、是、小、谷、と、こ、り
調、一、些、の、安、途、と、と、こ、り、也、義、系、出、馬、四、五、日、と、多、く、虎、河、前、山、は、城、修、
理、の、旨、易、登、折、さ、ま、し、り、と、と、呪、罵、あ、ら、り、と、一、軍、と、勢、と、
新、倉、勢、と、謀、り、合、せ、長、政、と、こ、り、と、二、千、金、勢、と、引、率、り、小、谷、城、を、擊、つ、と

日比谷の船倉式部丞と系流山崎長門守吉家と千余騎小てこを助く
 織田方勢と見たりも。柴田勝家本下秀吉一時小陣跡保出之儀
 甚く指揮せらるる。稲葉伊徳も同右系流同之儀と見たり。柴
 田小加勢也。後陣の池田孫三郎と本下が陣へ赴らる。本下池田の淺井
 小權り。柴田稲葉の千余騎小て船倉勢小撃て薙る。彼軍も同く
 二千餘騎是と違へて戦ひ初む。然るに淺井備前守長政の志氣本陣の
 の合戦より。遣り敗れと戦ひ初む。遠方の信長の旗本もも撃破らん
 と自軍の勢を鼓舞し。自身正魁小馬と進ませ。烈火に燒く。指揮
 せらる。遠隊小從ふ。千余騎の權小權る。勇士由一初も背陣へ進む。そ
 權威を奮りて揚幕。その權威の活る。本下秀吉隊伍を圍む。自軍
 を割て進ませ。敵は死を避んとて。各隊の隊を走小。竹小

隊伍へ一岡小異者落く。と敵軍薙る。本下得小場。淺井は益々少く
 疎漏に進もう。權威の儀を本下視る。敵を薙ると池田一隊と千
 余騎をひと推小。権威を撃て薙る。中にも加藤福嶋が傑氣。信
 長と戦ひ。淺井權勇ありとの儀も。對挑く。後く小を大將長政
 を異中り。武士とて。遠地を退け。西目のありとや。かみ退り引
 きと。陣り喚る。崩る。自軍を致さ。達。臨止り。指揮せらる。義を重
 んむる。勇士依背。癡く。死に晒す。骨小ある。本下矢を。まじと。踏
 へら。遠へ。心。小。り。て。戦ふ。本下長政が。旗本より。一個の勇士。擧げ。榮
 被る。濃。の。紫。威。系。麻。比。角。の。表。花。金。を。斜。ま。を。未。る。初。機。覺。た。る
 繞る。馬。小。り。ち。旗。子。檀。卷。を。擧。げ。小。分。る。流。を。擧。げ。唯。一。騎。沐。龍
 蒼。波。を。跳。出。く。惡。虎。を。叱。り。傳。さ。る。大。喝。一。声。呼。ぶ。と。見。下。本。下



脇坂の
勇助
加藤
如藤
福島の
三傑と
戦ふ



池田陣中へ瞬時もせを致して右小撃たし瀉部小致起後小流起
 一息僅吹せぬ際小致馬武者二騎擡擡し、怒怒小乗とて此時を
 ばあま小敵とて云士ひ。中を剛ひく通し、さうが池田が老黨が倉田守を
 遠揮先軍を懐り相々情き致しは、作作の先利止んと擡て驚り、時
 時措、軍ひしが、彼勇士が突發、陰突霹靂、さうも活なきは、倉倉忽地、
 陰小あり對戦りぬて、難危の怒あり。池田の云士六七騎、響あてて、
 一、度小致、倚擡起り、彼者ともとも、情す、ばこそ、六七騎、
 こそ、一、突、再、突、扱、登、せ、り、が、續、け、く、二、騎、を、隨、當、的、の、
 突、落、し、精、神、ま、と、く、盛、み、ま、は、戸、倉、を、細、池、田、の、云、士、
 と、逃、を、ま、ま、と、呼、ま、り、と、馬、を、跳、り、を、不、見、の、浪、皮、の、
 忽、地、神、通、を、得、る、が、如、く、怖、懼、ま、を、続、ま、し、遠、响、木、下、の、
 陣、中、より、行

相、助、也、跳、出、目、を、映、し、と、呼、ま、り、已、鬼、神、の、
 小、お、ろ、ろ、行、相、助、也、見、え、り、遠、瀟、突、を、
 行、時、の、の、く、や、と、の、小、乘、小、探、合、を、
 龍、憤、虎、怒、と、剛、ひ、し、勝、敗、甲、乙、更、小、
 加、藤、た、の、方、より、福、嶋、が、陰、部、
 提、團、を、殺、ん、と、を、彼、播、勇、士、の、
 暫、時、遮、へ、戦、ひ、ら、る、が、傑、氣、の、
 馬、を、返、し、と、を、に、還、く、と、人、
 淺、井、の、云、士、們、遮、り、止、め、
 混、み、ま、ま、を、戦、ひ、ら、る、が、
 死、體、を、踏、破、跳、り、起、生、死、
 提、合、ら、る、が、日、光、西、山、
 提、合、ら、る、が、日、光、西、山、

〇一 双方とも小笠を退収。速陣せんを構う。新倉崎の柴田稻
 葉と火水ありて戦ひ。浅井長政軍使より。河邊救あり
 べしと。京送りりしより。播磨小退りたり。柴田稻葉も退収せ
 ず。退収螺ひきぞ。退軍せり。浅井の両隊織田は四将引退
 ひて戦換を幾何ぞと。將檢する小浅井朝倉小二百余騎織
 田方小の二百余人常痛も。こま小准下りたり。然る小本小藤吉
 齋の今日款比一勇士。藤小秀へ擡らき。尋常ありと。心
 算り日根野足守ありありと。近くと。寤ひ視をこま。藤
 當小教を藏し。こま。面態楚と。視認らる。退陣し。こま。この事。心
 算りり。〇二 間者あり。〇三 此を存する小日根野足守の軍小
 中。〇四 松坂内。〇五 内。〇六 者あり。〇七 實。〇八 吾。〇九 推。〇一〇 岩。〇一一 小。〇一二 竹。〇一三 安。〇一四 途。

〇一 〇二 〇三 〇四 〇五 〇六 〇七 〇八 〇九 〇一〇 〇一一 〇一二 〇一三 〇一四 〇一五 〇一六 〇一七 〇一八 〇一九 〇二〇 〇二一 〇二二 〇二三 〇二四 〇二五 〇二六 〇二七 〇二八 〇二九 〇三〇 〇三一 〇三二 〇三三 〇三四 〇三五 〇三六 〇三七 〇三八 〇三九 〇四〇 〇四一 〇四二 〇四三 〇四四 〇四五 〇四六 〇四七 〇四八 〇四九 〇五〇 〇五一 〇五二 〇五三 〇五四 〇五五 〇五六 〇五七 〇五八 〇五九 〇六〇 〇六一 〇六二 〇六三 〇六四 〇六五 〇六六 〇六七 〇六八 〇六九 〇七〇 〇七一 〇七二 〇七三 〇七四 〇七五 〇七六 〇七七 〇七八 〇七九 〇八〇 〇八一 〇八二 〇八三 〇八四 〇八五 〇八六 〇八七 〇八八 〇八九 〇九〇 〇九一 〇九二 〇九三 〇九四 〇九五 〇九六 〇九七 〇九八 〇九九 一〇〇 一〇一 一〇二 一〇三 一〇四 一〇五 一〇六 一〇七 一〇八 一〇九 一〇一〇 一〇一一 一〇一二 一〇一三 一〇一四 一〇一五 一〇一六 一〇一七 一〇一八 一〇一九 一〇二〇 一〇二一 一〇二二 一〇二三 一〇二四 一〇二五 一〇二六 一〇二七 一〇二八 一〇二九 一〇三〇 一〇三一 一〇三二 一〇三三 一〇三四 一〇三五 一〇三六 一〇三七 一〇三八 一〇三九 一〇四〇 一〇四一 一〇四二 一〇四三 一〇四四 一〇四五 一〇四六 一〇四七 一〇四八 一〇四九 一〇五〇 一〇五一 一〇五二 一〇五三 一〇五四 一〇五五 一〇五六 一〇五七 一〇五八 一〇五九 一〇六〇 一〇六一 一〇六二 一〇六三 一〇六四 一〇六五 一〇六六 一〇六七 一〇六八 一〇六九 一〇七〇 一〇七一 一〇七二 一〇七三 一〇七四 一〇七五 一〇七六 一〇七七 一〇七八 一〇七九 一〇八〇 一〇八一 一〇八二 一〇八三 一〇八四 一〇八五 一〇八六 一〇八七 一〇八八 一〇八九 一〇九〇 一〇九一 一〇九二 一〇九三 一〇九四 一〇九五 一〇九六 一〇九七 一〇九八 一〇九九 一〇一〇〇

繪本豊臣勲功記四編卷之二 終

